



平成17年11月28日

関係各位

高千穂交易株式会社

代表取締役社長 山村秀彦

(コード番号 2676 東証第1部)

問合せ先

取締役常務執行役員

経営システム本部長 赤堀寛人

電話 03-3355-1111

ＩＣ（アクティブ）タグ利用の通学及び校内セキュリティシステムの実証運用を開始  
～本格運用に向け大阪府と共同推進、吹田市の公立中学校でＰＴＡ・地域も参画～

当社と子会社(株)エスキューブは、「**アクティブＩＣタグ**」を利用して生徒の通学や校内での安全を確保するセキュリティシステムの開発を、大阪府等と協力して進めてまいりました。このたび同システムの本格運用に向け、吹田市教育委員会、学校及びＰＴＡや地域の協議会等の参画のもと、吹田市内の公立中学校及び地域において、本格運用に先立つ実証運用を、下記のとおり実施することになりましたのでお知らせいたします。

今回のセキュリティシステムは、大阪府など産官学が参加する「大阪安全・安心まちづくり支援ＩＣＴ活用協議会（略称：大安協 だいあんきょう）」が、政府の都市再生本部（本部長：内閣総理大臣）の全国都市再生モデル調査に採択された『ＩＴ（ＩＣタグ）を活用した生徒の安全・安心確保システム構築事業』として推進し、新しい防犯モデルを創出するもので、大規模施設の入退室管理システムと商品監視システムトップの運用ノウハウと技術を持つ当社がシステム構築で全面参画しております。

今回構築した「**アクティブＩＣタグシステム**」は、**非常時の生徒の居場所確認やアラームとその情報の自動発信機能**、他の機器と連動させることができる機能のほか、学校内への不審者侵入検知ができるなど、多くの特長を持っております。

特に、(株)エスキューブが開発した「無線アクティブＩＣタグ」は、**タグの電池寿命が１年以上の長時間、タグ自体がアラーム信号に加えてアラーム音を発報するなどの国内初の性能と機能**を持つほか、認識距離が長いなど、他のシステムが有さない特長があります。

これにより、従来の個別セキュリティから、全国に先駆けて総合的なセキュリティシステムが実現いたしました。

記

１．実証試験運用の主な内容

(1)実証システム概要：「実証システム概要図」と「アクティブＩＣタグ」写真をご参照ください。

(2)2005年12月～2006年3月

防犯ブザー付きアクティブＩＣタグを配布・携帯

校門に防犯カメラとアンテナの設置・ＩＣタグと連動（ＩＣタグを携帯しない人が通過すると警告・自動録画）

フェンスに防犯カメラを設置

登下校情報の記録（希望する保護者には校門通過情報をメール配信）

校内での緊急事態発生時には防犯ブザーを使用し、アンテナと連動して情報管理センターが保護者・学校など関係者に連絡

(3)2006年4月以降（期間・取り組み内容の拡大）：通学路にアンテナ設置など

(4)参加予定人数

2005年12月～：希望者約160人

2006年4月以降：希望者全員

## 2．当社グループの役割

今回のセキュリティシステム構築は、当社が中心となって、当社グループの有するセキュリティシステム構築のノウハウ・技術・商品開発を核に行いました。今後の実証運用及び本格運用についても、ご協力される多くの方々及び団体のご意見を取り入れながら、各位がご満足されるシステムを目指し、安全で安心できる環境づくりを実現してまいります。

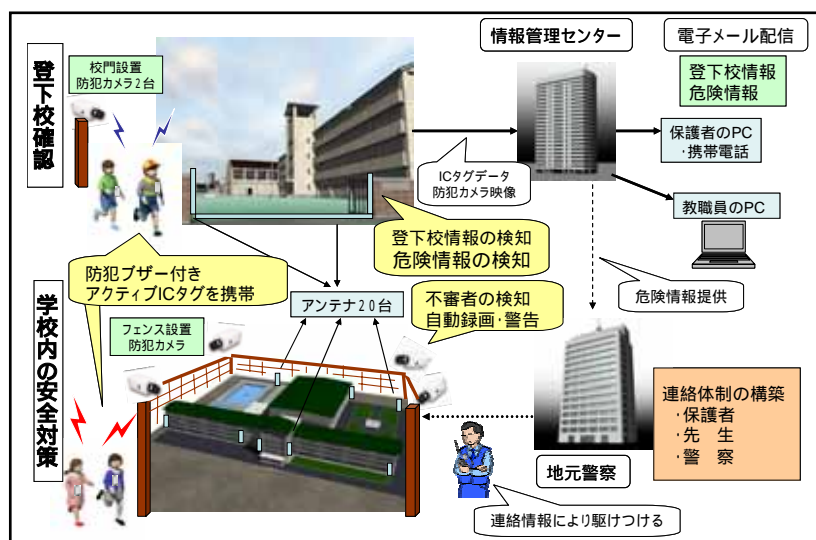
また、当社は、重要施設への入退室管理システムや商品監視システム国内最大手としての運用実績を有し、防犯タグ・アンテナとカメラ及び記録装置などのセキュリティ連動システムを多く設計・構築しており、今回のシステムは、学校内への不審者の侵入検知を実現するなど、当社が得意とする分野であります。

また、㈱エスキューブは、国内初の自鳴式タグを開発した技術力を活かした「無線アクティブICタグ」を開発し、これにより、一つのアクティブICタグで、1年以上電池交換無しに非常時の生徒の居場所確認や自動通報・ブザーなどができるなど、各種機能を有しております。

3．添付資料：大阪府の発表資料を添付します。

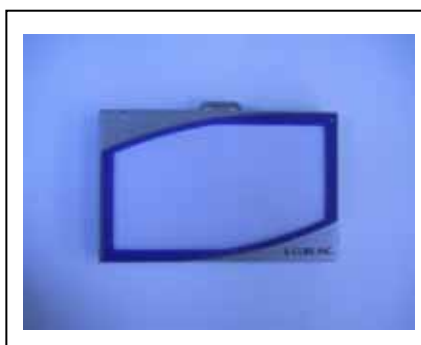
以 上

実証システム概要図



アクティブICタグ

(縦 90 mm × 横 62 mm × 厚 10 mm、40g)



報道資料提供

【問い合わせ先】

大阪府企画室科学・情報グループ

担当：原田

電話：06 6941 0351 内線 4423

Fax：06 6944 6619

大阪安全・安心まちづくり支援 ICT 活用協議会（略称：大安協）

担当：高鳥（関西情報・産業活性化センター地域振興事業部）

電話：06 6346 2981

Fax：06 6346 2443

全国都市再生モデル調査

**IT（IC タグ）を活用した生徒の安全・安心確保システム構築事業を開始  
＝吹田市立古江台中学校にて実証実験を行います＝**

「大阪安全・安心まちづくり支援 ICT 活用協議会（略称：大安協）」（会長澤田 純（NTT コミュニケーションズ）、平成 16 年 12 月設立、現在産官学 48 団体で構成）では、民間企業が中心となって ICT を活用した新しい防犯モデルを創出し、全国に広めていくことによって「安全・安心なまちづくり」の実現に取り組んでいます。

今回大安協の実験として都市再生本部（本部長：内閣総理大臣）の全国都市再生モデル調査に採択された『IT（IC タグ）を活用した生徒の安全・安心確保システム構築事業』（平成 17 年 6 月 24 日）の実証実験を吹田市立古江台中学校（校長：横内 環）で 12 月 12 日から本格実施することとなりました。

実施にあたっては、地域一体となった効果的な取り組みとするため、学校、地元自治体、地域の方々に意見をいただくことを目的として実行委員会を設置し、下記により第 1 回会議を開催しますのでお知らせします。

記

1. 日 時：平成 17 年 11 月 28 日（月）午後 7 時から午後 9 時まで

2. 場 所：吹田市古江台 1 丁目 1 - 1  
吹田市立古江台中学校 会議室

3. 議事内容：  
（1）実行委員会の設置について  
（2）実証実験の内容について  
（3）地域の活動等の紹介  
（4）その他

4. 実証実験の説明会兼デモンストレーション：  
12 月 9 日（金）午後 3 時半から古江台中学校で行う予定です。

添付資料：古江台中学校生徒安全確保実証実験実行委員会要綱（案）

古江台中学校生徒安全確保実証実験実行委員会メンバー（案）

IT（IC タグ）を活用した生徒の安全・安心確保システム構築事業の概要

別紙資料 1

別紙資料 2

別紙資料 3

## 古江台中学校生徒安全確保実証実験実行委員会要綱（案）

### （目的）

第 1 条 本実行委員会では、安全な学校生活の場を保障するために不審者の侵入を許さない学校づくりを展開と、ＩＣＴを活用して地域、自治会、学校など地域一体となった効果的な取り組みを検証するとともに「安全なまち・大阪」の実現を目指す。

### （名称）

第 2 条 本実行委員会は、「古江台中学校生徒安全確保実証実験実行委員会」（以下「実行委員会」という。）と称する。

### （役割）

第 3 条 ＩＣタグを活用した生徒の安全・安心確保システム実証実験の実施及び実施にかかる各種調整を行う。

- 2 機器の設置、運営及び実施にかかる調整。
- 3 地元関係機関の防犯関連取り組みとの連携。

### （組織）

第 4 条 実行委員会は別表に掲げる者をもって組織する。

### （事務局）

第 5 条 実行委員会の事務を処理するために大阪安全・安心まちづくり支援ＩＣＴ協議会・ＩＣタグ生徒安全確保実証実験推進グループ内に事務局を置く。

- 2 実行委員会は、事務局が必要に応じて召集し、これを主宰する。
- 3 事務局は、必要であると認めるときは、委員以外の関係者に会議への出席を求めることができる。

### （その他）

第 6 条 この要綱に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は事務局が別に定める。

### 附則

#### （施行期日）

第 7 条 この要綱は、平成 17 年 11 月 28 日から施行する。

- 2 この委員会における第 2 次実証実験の運用検討をふまえ、平成 18 年 3 月末に改訂することとする。

## 古江台中学校生徒安全確保実証実験実行委員会メンバー（案）

## （委員）

吹田市立古江台中学校 教職員

吹田市立古江台中学校 P T A

吹田市教育委員会

古江台中学校区地域教育協議会

津雲台青少年対策委員会

津雲台防犯協議会

古江台青少年対策委員会

古江台防犯協議会

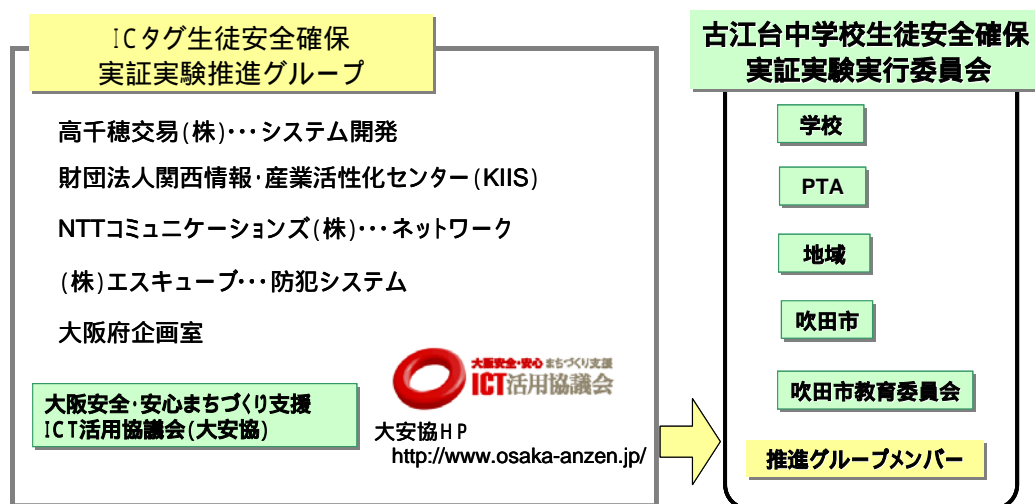
## （事務局）

I C タグ生徒安全確保実証実験推進グループ

【合計 16 名】

## （参考）

## 【実証実験推進体制図】



全国都市再生モデル調査

## IT（ICタグ）を活用した生徒の安全・安心確保システム構築事業の概要

## 1. 目的

大阪の犯罪発生状況は減少傾向に転じているものの、ひたくり認知件数が29年連続ワースト1で予断を許さない状況である。また寝屋川事件に見られるようにもはや学校内の安全が聖域ではなくなっている。

本実証実験では、防犯に対するICTを活用して地域、自治体、学校など地域一体となった効果的な取り組みを検証し、生徒の安心・安全を確保する。

## 2. 実施期間

平成17年12月～平成18年8月まで（機器の設置期間含まず）

## 3. 実証実験場所

吹田市立古江台中学校

## 4. 実証実験の内容

学校の安全対策としてフェンスに防犯カメラを設置し、不審者の侵入を許さない学校づくりを展開する。また防犯ブザーを内蔵した無線アクティブ型ICタグを利用して危険情報を把握、学校内での生徒の安全を守る（全国初）。

平成17年12月～平成18年3月

- ・防犯ブザー付きアクティブICタグを配布・携帯
- ・校門に防犯カメラとアンテナの設置・ICタグと連動（ICタグを携帯しない人が通過すると警告・自動録画）
- ・フェンスに防犯カメラを設置
- ・登下校情報の記録（希望する保護者には校門通過情報をメール配信）
- ・校内での緊急事態発生時には防犯ブザーを使用しアンテナと連動して情報管理センターが保護者・学校など関係者に連絡

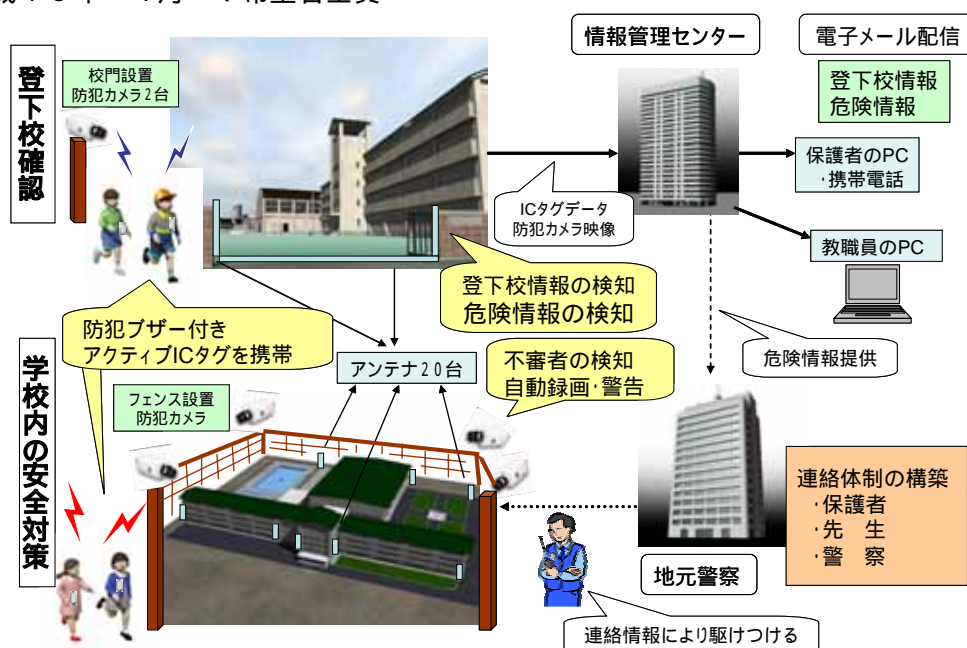
平成18年4月以降（期間・取り組み内容の拡大）

通学路にアンテナ設置 など

## 5. 参加予定人数

平成17年12月～：希望者約160人

平成18年 4月～：希望者全員



【実証実験の仕組み（システムの概要）】